

「快適」

「低学年の体験型環境学習」を関連させて総合的な取り組みとする「特色ある学校づくり事業」を展開します。中学校では、部活動の推進やトライやる・ウィーク事業、英語指導助手招致事業などを継続実施します。

環境にやさしいまちづくりは、市民の身近なところで取り組んでいただく「ごみ処理」の問題があります。家庭ごみの減量化

と分別収集による再資源化が急務であり、空き瓶回収車を導入して資源化の促進を図ります。古紙等の資源ゴミも、行政回収から地域や団体等の集団回収へできる限り移行するように助成を拡充しました。

南但広域行政事務組合で進めている「新クリーンセンター」の建設は、処理方式も決まり、地元説明などを行っています。ご理解をいただきながら引き続き取り組んでいきます。

平成16年台風23号において、山腹崩壊や風倒木など大きな被害が発生しましたが、風倒木の伐採・撤出も終え、跡地の造林

に着手します。針葉樹や広葉樹の混交林としての整備や環境対策育林事業による間伐なども実施して森林保全を進めます。なお、この事業費の多くは「県民緑税」を活用します。

憩いの場づくりとしては、県立畜産試験場但馬分場の有効活用を図るため、古墳や花をテーマにした公園を整備し、養父市場では親水公園の整備として「こいの川景画」事業に着手します。

生活に密着する道路整備は、昨年9月に待望の北近畿豊岡自動車道の和田山―八鹿間が起工し、現在、建屋川橋梁の下部工事を施工中です。八鹿―豊岡間も事業化が決定されているため間もなく現地測量に着手される予定です。

国道の整備は、上野地内の改良工事、八木地内・剣大橋交差点改良、八木谷ループ橋の拡幅工事、道の駅ようか前の改修、大谷地内の歩道改良工事などが予定されています。

県道においては、浅野バイパスが5月に開通予定で、広谷・十二所地内と系原地内では一部着工され、吉井バイパスでは用

地買収に取り組んでいます。また、門野―明延間、稲津―畑間、□米地―奥米地間、日畑地内では、「くらしの道づくり事業」として整備が進められます。

市道の整備は限られた財源の中での実施となりますが、鶴縄線、高柳・小佐線、八鹿・朝倉線、三谷線、上野・小山線、上箇・宮ノ前線、池山線、養父市場・大敷線、若杉線、船谷中央支線、岩崎線、建屋下線などの改良工事や20路線における維持補修工



▶北近畿豊岡自動車道和田山八鹿道路の起工式

事などを実施します。上水道については、小佐簡易水道の水源調査に着手し、北近畿豊岡自動車道整備に伴う浅野浄水場の移転と配水管の移設を実施します。

「生きがい・楽しみ・誇り」

人権を尊重することは、全ての基本となるものです。人権問題の解決に向けて人権尊重の理念を社会に定着させ、人権の意義が広く社会に浸透するように教育・啓発活動を積極的に推進するとともに、全ての行政施策の中で連携し、整合性を図りながら取り組めます。

生涯学習の場である公民館については、それぞれの地域特性を生かしながら、市民のニーズに合わせた年間活動計画のもと、いつでも、誰でも学習できる場を提供することに努めていきます。また、「県民交流広場」の活用も、大きな学びの場となるものと思います。文化ホールの企画運営についても、オペレータースタッフの皆さんの協力のもとに、魅力ある催しの開催や市民の活動発表の場として有効

活用します。

生きがいと健康づくりに不可欠なスポーツの振興は、昨年、多くの市民の協力により成功させた「のじぎく兵庫国体」の熱意を継承・発展させ、体育協会やスポーツクラブ21の会員の皆さんと連携した積極的な取り組みを目指します。

地域文化の振興は、第14回となる「木彫フォークアート展」の開催で木彫文化を、「ピハホルチエロコンクール」の昨年優勝者のリサイトを東京と市内で開催することで音楽文化を、養父市に生まれた偉大な作家・山田風太郎氏を顕彰する「風太郎祭り」の開催で文学を、それぞれ全国に発信し養父市の活動を大きくアピールします。また、「葛畑農村歌舞伎」の保存・継承は、多くの市民で支援する活動を展開し、その他の郷土芸能活動も応援していきます。

例年、各地域で特色をもって開催されている市民祭りも、従来に増しての盛り上がりとなるように努めます。

新たな取り組みになりますが、参画と協働の拠点となる市民活動センターと人権尊重を柱とす